



SYMPOSIUM

シンポジウム

芸術祭の取り組みと連動したテーマを設定し、オリンピック文化プログラムや新潟開港150周年などに関連させた「水と土」に相応しい、新潟らしい魅力の発信と地域活性化につながるシンポジウムを開催します。

また、水と土の芸術祭 2018 参加アーティストや各分野で活躍する有識者による座談会も開催。芸術活動や作品の解説、現代のアートの動向などについて、来場者も気軽に発言できる双方向のトークイベントを通じ、作品や地域の文化・自然への想いを深めます。

水と土の芸術祭 2018 第 1 回シンポジウム

「アートプロジェクトの関わり方 ～アートで社会の“境界”を超える～」の開催について

地域コミュニティの課題に対して文化芸術を活用することにより、そこに共に住む多様な人々の多様な価値観を知り、認め合うことで、課題を共有、解決していくことが期待される。それは障がい者だけでなく、子ども、高齢者、外国人市民、LGBT など、あらゆる地域に住み、あるいは関わる住民が互いの価値観の“境界”を超え、共に生きる社会を形成していくことにつながっていく。

本シンポジウムでは、アートが地域コミュニティや住民の意識にもたらす効果について検証するとともに、2020 年以降にアート、文化芸術がもたらす“レガシー”とは何かを考える。

開催 2018 年 8 月 19 日(日) 午後 2 時～午後 5 時(予定)

会場 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 中会議室

出演 第一部 基調講演

「アートプロジェクトが地域に残すもの ～意識を変える、価値観を生み出す～」(仮称)

栗栖 良依(NPO 法人スローレーベル 代表/ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2017 総合ディレクター/リオ・パラリンピックフラッグオーパーセレモニーステージアドバイザー)

第二部 パネルディスカッション

パネリスト

栗栖 良依(基調講演講師)

藤 浩志(秋田公立美術大学 副学長、教授/水と土の芸術祭 2018 市民プロジェクト・ディレクター及び子どもプロジェクト・ディレクター)

深澤 孝史(美術家/水と土の芸術祭 2018 市民プロジェクト参加予定作家/TURN 参加アーティスト)

野村 誠(作曲家、鍵盤ハーモニカ奏者、ピアニスト/水と土の芸術祭 2018 子どもプロジェクト参加作家)

モデレーター

江口 歩(新潟お笑い集団 NAMARA 代表)

申し込み方法などは、決まり次第お知らせいたします。

水と土の芸術祭 2018 第 2 回シンポジウム

「食文化による地域づくり～郷土食の再生からの地方創生～」

大正時代から 100 余年が経過し、当時のレシピを知る人や記録も失われつつある。完全に喪失してから再生するのは困難であり、今が最後の機会であるとも言える。

本シンポジウムでは、こうした郷土食の現状を把握、理解するとともに、その再生に向けた意識の啓発を図っていく。郷土食の再生は、単なる食文化の歴史研究ではなく、農業、健康医療、地域経済、コミュニティ等の各施策との連携が必要となるとともに、地域の個性を考える機会となり、地方創生につながっていくものとなり、その可能性について議論する。

開催 2018 年 9 月 2 日(日) 午後 2 時～午後 4 時 30 分(予定)

会場 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター スノーホール

出演 第一部 基調講演

「和食の範囲 ～郷土食の再生からの新たな展開～」(仮称)

服部 幸應(服部栄養専門学校校長)

第二部 パネルディスカッション

パネリスト

服部 幸應(服部栄養専門学校校長)

宗田 好史(京都府立大学京都和食文化研究センター長)

下仲 隆浩(小浜市教育委員会文化課日本遺産活用グループグループリーダー)

モデレーター

太下 義之(三菱 U F J リサーチ & コンサルティング株式会社 芸術・文化政策センター首席研究員/センター長)

申し込み方法などは、決まり次第お知らせいたします。